

定期作況報告

平成15年10月
(10月20日現在)

北海道立北見農業試験場

1 . 気 象 経 過

9 月下旬：最高気温は平年よりやや低く、最低気温は平年並、平均気温は平年よりやや低かった。降水量は平年並であった（平年比 71％）。日照時間は平年並であった（平年比 107％）。

10 月上旬：最高気温は平年並、最低気温は平年より低く、平均気温は平年よりやや低かった。降水量は平年よりやや少なかった（平年比 50％）。日照時間は平年より極めて多かった（平年比 149％）。

10 月中旬：最高気温は平年よりやや低く、最低気温・平均気温は平年並であった。降水量は平年より少なかった（平年比 22％）。日照時間は平年並であった（平年比 98％）。10月14日には初霜が観測された（平年より4日遅れ）。

以上のことから、この1か月間（9月下旬～10月中旬）は、気温は平年よりやや低く、降水量は平年よりやや少なく、日照時間は平年並であった。

注）降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

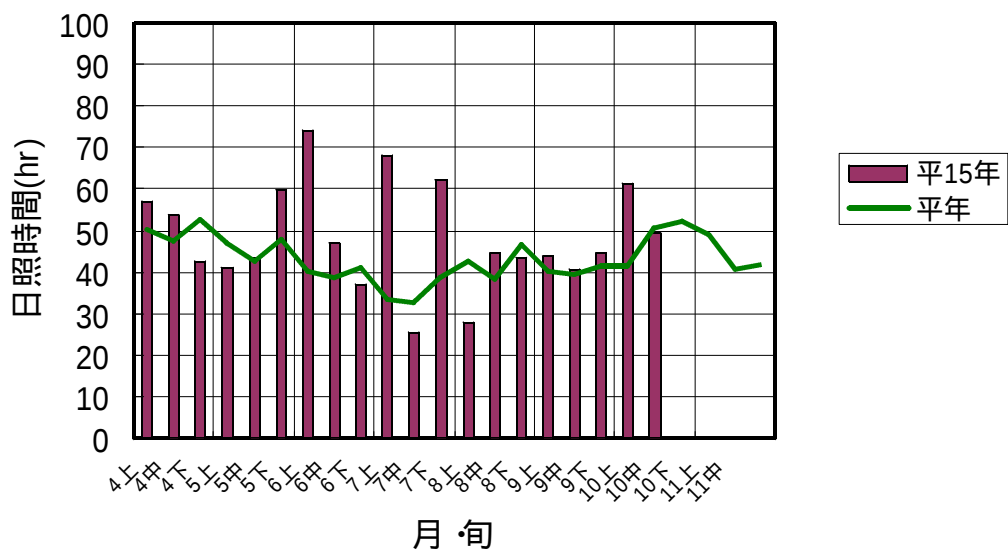
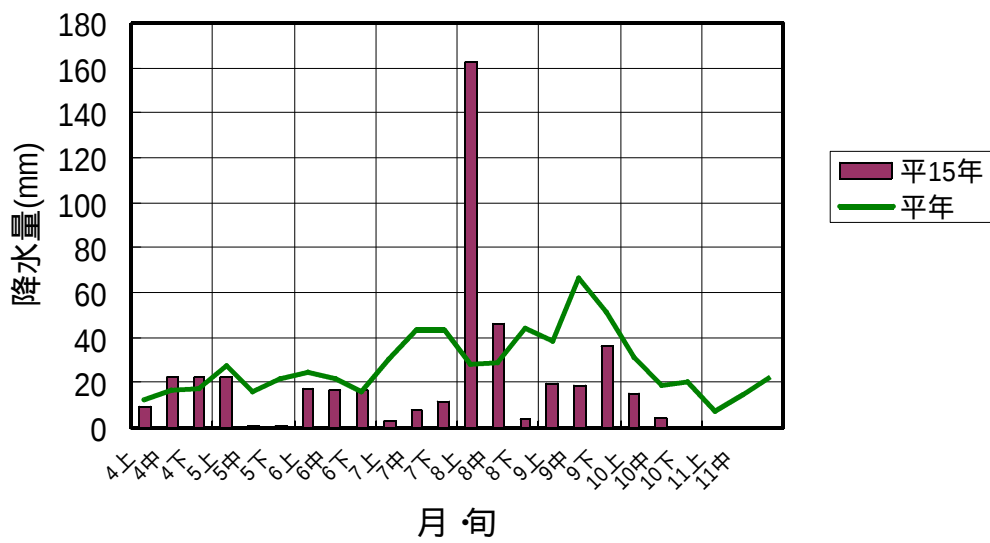
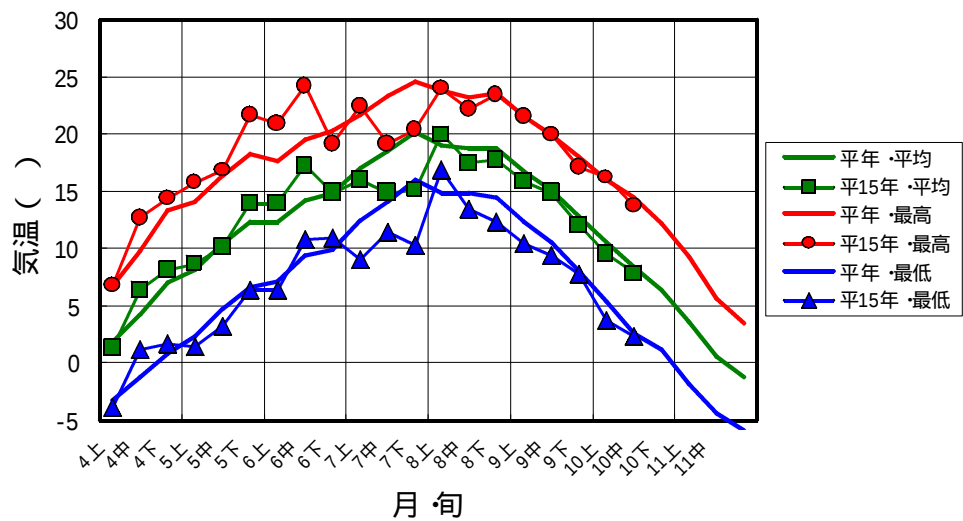
気 象 表

項 目 月 旬	平均気温（ ）			最高気温（ ）			最低気温（ ）		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
9 月下旬	12.1	12.8	0.7	17.2	18.0	0.8	7.8	8.0	0.2
10 月上旬	9.5	10.5	1.0	16.2	16.0	0.2	3.7	5.4	1.7
10 月中旬	7.9	8.4	0.5	13.7	14.5	0.8	2.3	2.6	0.3
平 均	9.8	10.6	0.8	15.7	16.2	0.5	4.5	5.3	0.7

項 目 月 旬	降水量（mm）			日照時間（h）		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
9 月下旬	36.5	51.7	15.2	44.6	41.5	3.1
10 月上旬	15.5	31.2	15.7	61.3	41.2	20.1
10 月中旬	4.0	18.6	14.6	49.5	50.7	1.2
合 計	56.0	101.5	45.5	155.4	133.4	22.0

注） 1）観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2）平年値は前10か年間の平均である。



２．当場の作況^{注)}

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

１)とうもろこし 作 況：平年並

事 由：収穫期は黄熟期に達した９月30日で、平年より５日遅かった。本年は９月下旬の平均気温が平年よりやや低く登熟が若干遅れたが、収量には影響はなく、推定ＴＤＮ収量は平年並であった。

以上のことから目下の作況は平年並である。

品種名	収穫期（月・日）			雌穂の熟度		有効雌穂割合（％）			生総重(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ディアＨＴ	9.30	9.25	5	黄熟初期	黄熟初期	100.0	99.6	0.4	5814	5833	19

品種名	乾物茎葉重(kg/10a)			乾物雌穂重(kg/10a)			乾物総重(kg/10a)			同左 平年比 (％)
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
ディアＨＴ	713	745	32	781	725	56	1494	1470	24	102

品種名	総体乾物率（％）			推定ＴＤＮ収量(kg/10a)			同左 平年比 (％)	乾雌穂重割合（％）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較		本年	平年	比較
ディアＨＴ	25.8	25.4	0.4	1078	1050	28	103	52.3	49.3	3.0

注) 平年値は前５か年の平均（平成10年に供試品種を変更したため）。

推定ＴＤＮ収量＝乾物茎葉重×0.582＋乾物雌穂重×0.850。

２)大 豆 作 況：平年並

事 由：９月下旬以降は気温はやや低めに推移したものの、成熟期は平年並からやや早まった。着莢数は平年に比べて約12％少なかったが、百粒重が平年をやや上回ったため、子実重は概して平年並であった。

以上のことから目下の作況は平年並である。

３)小 豆 作 況：やや不良

事 由：９月下旬以降は気温はやや低めに推移したが、霜による被害はなかった。生育が遅れていた

「エリモショウズ」は成熟期が平年に比べて14日遅れ、着莢数も少なかったが、百粒重が平年を上回り、子実重はほぼ平年並となった。一方、「サホロショウズ」は、7月の低温により主茎の伸長が停止し生殖生長に移行していたため、成熟期の遅れは小さかった。しかし、着莢数は少なく、百粒重はほぼ平年並のため、子実重は平年を下回った。

以上のことから目下の作況はやや不良である。

4) 菜 豆 作 況：金時 良、手亡 良

事 由：金時は着莢数は平年並であったが、未熟粒の発生が平年より多く屑粒率がやや高くなった。しかし、百粒重が平年を大きく上回ったため子実重は平年を上回った。また、「雪手亡」は着莢数が平年より多く、百粒重もやや上回り子実重は平年を上回った。

以上のことから目下の作況は金時、手亡ともに良である。

種類	品 種 名	成熟期（月・日）			主茎長・草丈(cm)			主茎節数（節）		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
大豆	トヨコマチ	9.28	10.4	6	65.4	62.7	2.7	11.6	11.0	0.6
	トヨホマレ	10.9	10.8	1	64.5	60.3	4.2	12.3	11.8	0.5
小豆	エリモショウズ	10.10	9.26	14	45.5	53.2	7.7	11.8	13.3	1.5
	サホロショウズ	9.24	9.21	3	21.1	44.8	23.7	9.5	10.9	1.4
菜豆	大正金時	9.15	9.7	8	37.0	43.6	6.6	5.9	5.3	0.6
	雪手亡	9.22	9.25	3	58.9	58.4	0.5	11.6	9.4	2.2
	福勝	9.16	9.11	5	38.7	45.3	6.6	5.8	5.4	0.4

種類	品 種 名	分枝数(本/株)			着莢数(個/株)			子実重(kg/10a)			同左 平年比 (%)
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
大豆	トヨコマチ	4.6	5.3	0.7	52.7	60.4	7.7	299	295	4	101
	トヨホマレ	4.9	4.3	0.6	60.9	69.2	8.3	315	299	16	105
小豆	エリモショウズ	3.1	3.1	0.0	36.3	45.7	9.4	364	363	1	100
	サホロショウズ	3.4	3.9	0.5	33.3	46.0	12.7	245	321	76	76
菜豆	大正金時	4.2	3.6	0.6	17.6	18.2	0.6	315	283	32	111
	雪手亡	6.2	6.6	0.4	39.2	31.8	7.4	461	397	64	116
	福勝	4.3	3.1	1.2	17.6	16.2	1.4	373	291	82	128

種類	品種名	屑粒率（％）			百粒重（g）		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
大豆	トヨコマチ	0.2	1.2	1.0	32.6	31.8	0.8
	トヨホマレ	0.6	0.8	0.2	32.4	30.2	2.2
小豆	リモショウズ	7.7	3.6	4.1	17.2	15.9	1.3
	サホロショウズ	7.0	4.3	2.7	17.5	16.8	0.7
菜豆	大正金時	7.3	1.7	5.6	86.4	72.9	13.5
	雪手亡	1.1	4.1	3.0	37.9	34.3	3.6
	福勝	9.2	2.1	7.1	103.4	84.3	19.1

注）平年値は、大豆は前 7 か年中平成10年、12年を除く 5 か年、小豆は前 8 か年中平成10年、14年および試験を中止した12年を除く 5 か年、菜豆は前 8 か年中平成11年、13年および再播した10年を除く 5 か年の平均。

5）ばれいしょ 作 況：不良

事 由：「男爵薯」は、前報通り夏場の干ばつの影響で、枯凋期は平年より20日早く、上いも重は平年より 4 割程度下回り著しい低収となった。「コナフブキ」も干ばつの影響を引きずり、枯凋期は平年より 7 日早い 9 月30日であり、上いも重・でん粉重は平年より 3 割程度下回り著しい低収となった。でん粉価は、低温傾向のため 1 %ほど平年より高い。

以上のことから目下の作況は不良である。

なお、試験圃は干ばつが激しいため不良となったものと見られ、管内作況の見込みでは平年並である。

品 種 名	枯凋期（月・日）			上いも重(kg/10a)			でん粉価（％）			でん粉重(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男 爵 薯	8.21	9.10	20	2767	4593	1826	16.6	15.3	1.3	-	-	-
コナフブキ	9.30	10.7	7	3620	5117	1497	23.5	22.5	1.0	815	1098	283

注）平年値は前 7 か年中、「男爵薯」は平成 9 年、14年を、「コナフブキ」は平成 9 年、11年をそれぞれ除く 5 か年の平均。

6）てんさい 作 況：良

事 由： 収穫は平年どおり10月20日に行った。初霜が遅かったため、茎葉の生育は平年に比べて旺盛であった。降水量も平年を下回ったために根中糖分の増加も順調であった。移植栽培の糖量は二

品種平均で平年比107であり、直播栽培も平年比114と良好な作柄であった。

以上のことから目下の作況は良である。

栽培法	品種名	収穫期（月・日）			茎葉重（t/10a）			根重（t/10a）		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
移植	モノホマレ ストーク	10.20	10.20	0	6.58	5.04	2.07	5.92	5.90	0.02
		10.20	10.20	0	6.72	5.41	3.02	5.54	5.29	0.25
直播	モノホマレ	10.20	10.20	0	5.98	5.00	2.33	5.57	5.06	0.51

栽培法	品種名	根中糖分（％）			糖量（kg/10a）			平年比（％）		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	根重	根中糖分	糖量
移植	モノホマレ ストーク	18.04	17.65	0.39	1068	1036	32	100	102	103
		18.93	18.07	0.86	1049	947	102	105	105	111
直播	モノホマレ	17.76	17.16	0.60	989	864	125	110	103	114

注）平年値は前7か年中、移植「モノホマレ」は平成10年、14年を、「ストーク」は平成10年、13年を、直播は平成10年、11年をそれぞれ除く5か年の平均。

7）牧 草 作 況：不良

事 由：チモシー・アカクローバ混播草地の3番草はアカクローバの草丈がやや高く、乾物率がやや低く、乾物収量の平年比が139であった。またチモシー単播草地の3番草は草丈が低く、乾物収量の平年比が102であった。混播草地で多収だったのは、9月上旬以降の少雨により、乾燥を好むアカクローバの生育が旺盛になったためと考えられる。1～3番草を合計した収量の平年比は混播草地で91、単播草地で87であった。また混播・単播両草地を合算した収量の平年比は90であった。

以上のことから目下の作況は不良である。

草地	番草	草 種	草丈（cm）			マメ科率（％）			乾物率（％）		
			本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
混播	3番草	チモシー アカクローバ	58	54	4	75.0	78.6	3.6	14.5	15.4	0.9
			51	42	9						
単播	3番草	チモシー	33	49	16	-	-	-	25.1	25.6	0.5

草地	番草	生草収量 (kg/10a)				乾物収量 (kg/10a)			
		本年	平年	比較	平年比 (%)	本年	平年	比較	平年比 (%)
混播	1 番草	2456	3610	1154	68	500	627	127	80
	2 番草	2162	2829	667	76	343	382	39	90
	3 番草	1477	860	617	172	215	155	60	139
	合計	6095	7299	1204	84	1058	1164	106	91
単播	1 番草	1472	1751	279	84	382	413	31	92
	2 番草	437	719	282	61	102	162	60	63
	3 番草	494	471	23	105	124	121	3	102
	合計	2403	2941	538	82	608	696	88	87

- 注) 1. 1～3番草の収穫日は、それぞれ6月18日、8月8日、10月6日である。
2. 各草種の品種はチモシーが「ノサップ」、アカクローバが「サッポロ」である。
3. 混播草地の乾物率は、チモシーとアカクローバを併せた全体についてのものである。
4. 平年値は前7か年中、混播草地では平成8年と11年を、単播草地では8年と14年をそれぞれ除く5か年の平均。

8) たまねぎ 作 況：良（参考）

事 由：9月下旬は降水量が平年より少なく、枯葉期はほぼ平年並で収穫も順調であった。一球重は重いのが、球肥大が進んだことによる変形、分球等が多く、特に晩生品種である「スーパー北もみじ」の規格内率が低くなった。供試品種全体としては、総収量が平年を大きく上回ったために規格内収量も高くなった。

以上のことから目下の作況は良（参考）である。

品 種 名	枯葉期（月・日）			収穫期（月・日）			一球重（g）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
スーパー北もみじ	9.19	9.17	2	9.25	9.30	5	256	183	73
北もみじ	9.17	9.17	0	9.25	10.1	6	218	170	48
改良オホーツク1号	9.5	9.7	2	9.09	9.26	17	201	172	29

品 種 名	規格内収量 (kg/10a)				総収量 (kg/10a)				規格内率 (%)		
	本年	平年	比較	平年比 (%)	本年	平年	比較	平年比 (%)	本年	平年	比較
スーパー北もみじ	6660	5080	1580	131	8090	5320	2770	152	82	95	13
北もみじ	6010	4610	1400	130	6880	4960	1920	139	87	93	6
改良オホーツク 1 号	5460	4490	970	122	6240	5050	1190	124	88	89	1

注) 平年値は固定ほ場(火山性土)の成績、本年は沖積土の成績のため、「参考扱い」とする。前7か年中、「スーパー北もみじ」は平成12年、13年を、「北もみじ」および「改良オホーツク 1 号」は平成10年、12年をそれぞれ除く5か年の平均。